

## 日本史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 15 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の A・B・C の各文を読んで、それぞれの設問に答えなさい。答えは、解答欄に記入しなさい。

A

710(和銅3)年、元明天皇は、藤原京から奈良盆地北部の平城京に遷都した。平城京遷都以後、794(延暦13)年、平安京に遷都するまでの80年余りを奈良時代と呼んでいる。平城京は、唐の都長安に倣って、碁盤目状に東西・南北に走る道路で整然と区画されていた。これを (ア) 制という。

708(和銅元)年、武蔵国から銅が献上されたのをきっかけに、政府は、7世紀の天武天皇のころに発行された富本銭に続いて、唐に倣い和同開珎の鑄造・発行を始めた。これは、流通の手段として本格的に用いられた銭貨であった。当初発行された銀・銅二銭のうち、銀銭は翌709(和銅2)年に廃止されたが、銅銭は継続して発行され、政府はその流通を奨励した。しかし、その流通の範囲は、京・畿内に限られており、それ以外の地域では、稲や布などが貨幣としての役割を果たしていた。

問(1) 空欄(ア)に該当する語句を記しなさい。

問(2) 下線部(a)に関連して、政府は、和同開珎の後も10世紀半ばごろまでに合計12種類の銅銭の鑄造を続けた(皇朝十二銭)が、最後の銅銭は何であったか。次の語群から選んで、その記号を記しなさい。

〔語 群〕

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| A 神功開宝 | B 貞観永宝 | C 乾元大宝 |
| D 寛平大宝 | E 万年通宝 | F 延喜通宝 |

問(3) 下線部(b)に関連して、政府が和同開珎の流通を促すために発した法令名を記しなさい。

問(4) 問(3)の法令は、和同開珎の流通を促すために、次のような施策を定めた。

(和銅四年冬十月甲子) <sup>みことり</sup>詔して曰く、「夫れ <sup>のたまわ</sup> 錢の用なるは、<sup>そ</sup> 財は <sup>たから</sup> 通はして有無を貿易する <sup>ゆえ</sup> 所以なり。当今、百姓尚ほ習俗に迷ひて、未だ其の理を解せず。僅に売り買ひすると雖も、猶ほ錢を蓄ふる者無し。其の多少に随ひて節級して位を授けよ。」<sup>(c)</sup>

(『続日本記』)

下線部(c)はどういう意味か、15字程度で説明しなさい。

## B

管領家である斯波氏と畠山氏では家督の相続をめぐって内紛が生じていたが、これに8代将軍足利義政の 継嗣問題 <sup>(d)</sup> がからんで、1467(応仁元)年、約1世紀に及ぶ戦国時代の幕開けとなる応仁・文明の乱が勃発した。守護大名は、山名持豊(宗全)が率いる西軍と細川勝元が率いる東軍に分かれて戦い、主戦場 <sup>(e)</sup> となった京都は、その大半が焦土と化して荒廃した。

問(5) 下線部(d)に関連して、『応仁記』には、「<sup>ひのとい</sup> 応仁丁亥ノ歳、天下大ニ動乱シ、ソレヨリ永ク五畿七道悉ク乱ル。其起ヲ尋ヌルニ、尊氏将軍ノ七代目ノ将軍義政公ノ天下ノ成敗ヲ有道ノ管領ニ任セズ、只御台所、或ハ香樹院、或ハ春日局ナド云、理非ヲモ弁ヘズ、公事政道ヲモ知り給ハザル青女房・比丘尼達、計ヒトシテ酒宴淫楽ノ紛レニ申沙汰セラレ・・・」と書かれている。この文章中、「御台所」とは義政の弟義視と対立した人物を指すが、その氏名を記しなさい。

問(6) 下線部(e)に関連して、応仁・文明の乱が終息した年の幕府の状態について、『大乘院寺社雑事記』は、次のように記している。

「(文明九年十二月十日)・・・就中天下の事，更に以て目出度き子細これ無し。近国に於いては，近江・三乃・尾帳・遠江・三川・飛驒・能登・加賀・越前・大和・河内，此等ハ悉く皆 (イ) に応ぜず，年貢等一向進上せざる国共なり。其の外ハ紀州・摂州・越中・和泉，此等ハ國中乱るるの間，年貢等の事，是非に及ばざる者なり。サテ公方 (イ) の国々ハ幡摩・備前・美作・備中・備後・伊勢・伊賀・淡路・四国等なるが，一切 (イ) に応ぜず。守護の体，別体に於いては，(イ) 畏み入るの由申し入れ，遵行等これを成すと雖も，守護代以下在国の物，中々承引する能はざる事共なり。仍て日本国ハ悉く以て (イ) に応ぜざるなり。」

空欄(イ)に該当する語句を記しなさい。

問(7) 東山山荘内に建てられた義政の持仏堂である東求堂の一室は，同仁齋と呼ばれ，畳を敷き詰めて天井をはり，違い棚や床の間を設け，明障子や襖を多く用いた (ウ) となっていた。

空欄(ウ)に該当する語句を記しなさい。

C

1680(延宝8)年，徳川家綱の後を継いで弟の綱吉が5代将軍に就任した。幕府の成立期には安定していた財政も，金銀の産出量の減少などによって3代将軍家光の頃から次第に逼迫しはじめ，4代将軍家綱のときに起こった (エ) 後の江戸の復興費用は，幕府財政を直撃した。さらには，寺院の造営や改築のための多大な出費など綱吉による放漫な財政運営は，幕府財政の破綻を招いた。この財政難を打開するため，綱吉は，勘定吟味役(のち勘定奉行)の荻原重秀の献策を入れて貨幣改鋳を行い，慶長金銀よりも質の悪い元禄金銀を發行してその差額(出目)を幕府の歳入とした。この差益は，幕府財政を一時的に好転させたが，貨幣価値の下落による物価の上昇を招き，人々の生活を圧

迫することとなった。さらに、綱吉の晩年には富士山が大噴火し、武蔵・相模・駿河などの国々に降灰による大被害をもたらした。

問(8) 空欄(エ)に該当する語句を記しなさい。

問(9) 下線部(イ)に関連して、「今に至て此急を救はるべき事、金銭の製を改造せらるるの外、其他あるべからず」(『折たく柴の記』)と勧める荻原重秀に対して、 はこれを退け、元禄金銀を改めて慶長金銀と同品質に戻す正徳金銀を鑄造した。

空欄(オ)に該当する人名を記しなさい。

問(10) 下線部(ウ)に関連して、富士山が大噴火したのは何年か、西暦で記しなさい。

〔Ⅱ〕 次の(A)・(B)・(C)・(D)の各文を読み、各問題について、語群からもっとも適当と思われる語を選んで、その記号を解答欄(解答用紙裏面)にマークしなさい。

(A)

幕府は、再度の元の襲来に備えて、九州地方の警戒態勢を強めた。多数の御家人を [ ] として配置したほか、北条氏一族を [ア] として博多に派遣して、九州地方の軍事・行政・裁判にあたらせた。さらには、全国の守護・地頭の職などにも北条氏一族が入り込み、北条氏一族の勢力が全国に広く及んでいった。

このように北条氏一族の勢力が増強していく中で、北条氏の嫡流の惣領家である [イ] が強大な支配権力を握り、幕政を主導するようになった。

[イ] は、北条氏一族や有力な御家人に加え、その家臣である御内人を私邸に集めて寄合を開いて、政治を決定し、また、裁判にも直接関与するようになった。それまで行われていた評定衆による合議制が形骸化し、幕府における [イ] 専制が確立した。

[イ] やその家臣である御内人の権力が増強するにつれて、本来の御家人との対立が激しくなった。1285(弘安8)年に、御内人の筆頭であった平頼綱が、鎌倉御家人の有力者である安達泰盛とその一族を討伐した。この事件により、御家人の幕府と [イ] に対する不信と不満は、ますます強くなっていった。

問(1) 空欄(ア)に該当する語句を選びなさい。

〔語 群〕

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| A 評定衆 | B 鎮西探題 | C 六波羅探題  |
| D 奉行人 | E 長門探題 | F 異国警固番役 |

問(2) 空欄(イ)に該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |       |       |      |
|-------|-------|------|
| A 公文所 | B 別当  | C 総領 |
| D 執権  | E 内管領 | F 得宗 |

問(3) 下線部(a)を何というか。該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |       |        |      |
|-------|--------|------|
| A 内管領 | B 旗本   | C 総領 |
| D 執権  | E 得宗被官 | F 得宗 |

問(4) 下線部(b)の事件を何というか。該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| A 中先代の乱 | B 二月騒動 | C 応永の乱 |
| D 霜月騒動  | E 宝治合戦 | F 正中の変 |

(B)

秀吉は、1585(天正13)年、朝廷から  の地位に任じられて、長宗我部元親を降伏させて四国地方を平定すると、翌年には、さらに  (ウ) に任じられ、豊臣の姓を授けられた。朝廷の権威を背景にした秀吉は、天皇から権限を委ねられたと称して、全国の戦国大名に私戦の停止を命じる  (エ) を発令した。

その後、この  (エ) に違反したことを理由として、1587年(天正15)年に九州の島津義久を服従させ、1590(天正18)年に小田原の北条氏政を討伐し、さらに、伊達政宗ら東北地方の諸大名をそれぞれ降伏させて、ここに天下統一を達成した。

問(5) 空欄(ウ)に該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |         |        |         |
|---------|--------|---------|
| A 太政大臣  | B 摂政   | C 関白    |
| D 右近衛大将 | E 権大納言 | F 征夷大將軍 |

問(6) 空欄(エ)に該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |         |        |          |
|---------|--------|----------|
| A 喧嘩停止令 | B 惣無事令 | C 刀狩令    |
| D 人掃令   | E 樂市令  | F 喧嘩両成敗法 |

(C)

江戸時代においては、将軍と諸大名が、幕府および諸藩において強力な領主権をもち、領地と領民を封建的に支配する統治体制(幕藩体制)がとられた。大名の藩支配の形態として、初期の頃には、一部の有力武士に領地を与えて、その領民支配を認めることもあったが、その後<sup>(c)</sup>に彼らを家老や奉行などの要職につけて藩政に従事させ、領内一円支配を強化していった。1615(元和元)年の一国一城令は、有力武士の城下町への移住と家臣団への編制を促すきっかけとなった。このように領地の付与に代えて<sup>(d)</sup>蔵米を支給する家臣がしだいに増加していく中で、大名の強力な藩権力が確立されるに至った。

問(7) 下線部(c)の制度を何というか。該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| A 一国一城制 | B 守護領国制 | C 地方知行制 |
| D 大名知行制 | E 村請制   | F 大名領国制 |

問(8) 下線部(d)の制度を何とよいか。該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| A 本領安堵 | B 新恩給与 | C 地方知行 |
| D 地方直  | E 俸禄   | F 食封   |

(D)

江戸幕府の軍事力は、諸大名による軍役と、と (オ) の軍役で構成された。諸大名は、平時には、幕府から命じられた土木・建築工事があればそれを行い、戦時には、石高に応じた兵力を率いて従軍する義務を負担した。と (オ) はともに<sup>(e)</sup>將軍直属の家臣であり、將軍に謁見を許されるものが, 許されないものが (オ) である。と (オ) は江戸に住居を構え、平時には、任された役職を果たし、戦時には、軍役を負った。

問(9) 空欄(オ)に該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |      |        |       |
|------|--------|-------|
| A 大身 | B 遠国奉行 | C 代官  |
| D 目付 | E 旗本   | F 御家人 |

問(10) 下線部(e)のことを何とよいか。該当する語句を選びなさい。

[語 群]

- |      |        |       |
|------|--------|-------|
| A 陪臣 | B 御目見得 | C 直参  |
| D 家人 | E 旗本   | F 御家人 |

〔Ⅲ〕 次のA・B・Cの各文(一部変更を加えている)を読んで、それぞれの設問に答えなさい。答えは、解答欄に記入しなさい。

A

- 一 <sup>おおい</sup>大ニ<sup>このこくぜ</sup>斯国是ヲ定メ制度規律ヲ建ルハ、御誓文ヲ以テ目的トス。
- 一 天下ノ権力<sup>すべ</sup>総テ之ヲ太政官ニ<sup>き</sup>帰ス、則政令<sup>すなわち</sup>ニ途<sup>にと</sup>ニ出ルノ患<sup>うれい</sup>ナカラシム、太政官ノ権力ヲ分ツテ、立法行政司法ノ三権トス。則偏重ノ患無カラシムルナリ。<sup>(a)</sup>
- 一 立法官ハ行政官ヲ兼ヌルヲ得ズ、行政官ハ立法官ヲ兼ヌルヲ得ズ。
- 一 各府各藩各県、皆貢士ヲ出シ議員トス、議事ノ制ヲ立ツルハ輿論公議ヲ執ル<sup>ゆえん</sup>所以ナリ。
- 一 諸官四年ヲ以テ交代ス。公撰入札ノ法ヲ用フベシ、<sup>ただし</sup>但今後<sup>しよたび</sup>初度交代ノ時<sup>その</sup>其一部ノ半ヲ残シ、二年ヲ延シテ交代ス、断続<sup>(b)</sup>宜キヲ得セシムルナリ、若シ其人衆望ノ所属アツテ去リ難キ者ハ猶数年ヲ延サザルヲ得ズ。

(『明治政史』)

問(1) 上の文章は、1868(慶応4)年閏4月、「御誓文」を具体化するために明治政府によって頒布されたものである。何と呼ばれているか。

問(2) 下線部(a)について、何の原則と呼ばれているか。漢字4字で答えなさい。

問(3) 下線部(b)について、現在では何と呼ばれているか。漢字2字で答えなさい。

問(4) この文章を起草した人物の一人で、佐賀藩出身、1871(明治4)年に「外務卿」に就任したが、のち征韓論を主張して下野した人物はだれか。その氏名を記しなさい。

B

(X)

いはゆる  とは、法律の理論上主権の何人<sup>あ</sup>に在りやといふことは、<sup>お</sup>措いてこれを問はず、ただその主権を行用するに当つて、主権者は須らく一般民衆の利福並びに意向を重んずるを方針とす可しといふ主義である。即ち國権の運用に関してその指導的標準となるべき政治主義であつて、主権の君主に在りや人民に在りやはこれを問ふところでない。もちろんこの主義が、ヨリ能く且つヨリ適切に民主国に行はれ得るは言ふを俟たない。しかしながら君主国に在つてもこの主義が、君主制と毫末も矛盾せずに行はれ得ることまた疑ひない。

(Y)

かくして政治学およびその学者たる吉野先生は、実は政治の目的として、国家主義を第一義的原則とし、個人主義を第二義的原則としながら、政治の目的の絶対的原則は分らない、国家主義も個人主義も要するに同一価値の相<sup>あいよ</sup>依り相助くべき相対的原則に過ぎない、とごまかして、そして更に消極的にも積極的にも国家や政治に何らの危険のない政治の方法といふ事についてのいわゆる絶対的原則を求めた。万人の政治学者の定論を求めた。吉野先生に<sup>よ</sup>拠れば、この絶対的原則がすなわち  である。

問(5) 空欄(ア)にはいる語句を漢字4字で記しなさい。

問(6) 文章(X)は、政治学者「吉野先生」によって1916(大正5)年に『中央公論』に発表された論文の一節である。その論文の題名は「」を説いて其有終の美を<sup>な</sup>済すの途を論ず」であつた。空欄(イ)に入る5文字を記しなさい。

問(7) 文章(Y)は、「吉野先生」の主張への批判である。『種の起原』『昆虫記』やクロポトキンの翻訳者として知られ、代表的なアナキストとして関東大震災の折に憲兵によって殺害されたこの筆者は誰か。氏名を記しなさい。

C

合衆国政府及日本政府ハ左ノ如キ措置ヲ採ルコトヲ提案ス。

- 一 合衆国政府及日本国政府ハ、英帝国・支那・日本国・和蘭・蘇聯邦・泰国及合衆国間多<sup>たへん</sup>边的不可侵条約ノ締結ニ努ムベシ。
- 三 日本国政府ハ支那及印度支那<sup>インドシナ</sup>ヨリ一切ノ陸、海、空軍兵力及警察力<sup>てっしゅう</sup>ヲ撤収スベシ。
- 四 合衆国政府及日本国政府ハ臨時ニ首都ヲ重慶ニ置ケル中華民國国民政府以外ノ支那ニ於<sup>お</sup>ケル如何ナル政府若クハ政權<sup>い</sup>ヲモ軍事的・経済的ニ支持セザルベシ。
- 五 両国政府ハ外国租界及居留地内及之ニ<sup>そかい</sup>関聯セル諸權益<sup>かんれん</sup>竝ニ一九〇一年の団匪事件議定書ニ依<sup>よ</sup>ル諸權利ヲモ含ム支那ニ在ル一切ノ治外法權<sup>ほうき</sup>ヲ拋棄スベシ。
- 九 両国政府ハ其何レカ<sup>いず</sup>ノ一方ガ第三国ト締結シ<sup>かなわ</sup>ル如何ナル協定<sup>(d)</sup>モ、同国ニ依<sup>よ</sup>ル本協定ノ根本目的即チ太平洋地域全般ノ平和確立及保持ニ矛盾スルガ如ク解釈セラレザルベキコトヲ同意スベシ。

(『日本外交年表並主要文書』)

問(8) 1941(昭和16)年10月、東条英機が首相となった。翌月の御前会議では、自存自衛及び大東亜新秩序建設のためには対英米蘭戦争がやむを得ないことが確認される。他方では、野村駐米大使らによる対米交渉が継続されていた。本文章は、アメリカ合衆国国務長官から1941年11月26日に示された日本政府への最後通牒とされているものである。長官の名をとって何と呼ばれているか、記しなさい。

問(9) 下線部(c)が想定していた政権は、人名を付して何政権と呼ばれていたか。人名(漢字3字)を記しなさい。

問(10) 下線部(d)は、具体的には、日本政府が前年9月近衛内閣のもとで結んだ条約をさしているが、何と呼ばれているか。

〔Ⅳ〕 次の(A)・(B)・(C)の各ブロックの文中の空欄に、各ブロックの語群からもっとも適当と思われる語を選んで、その記号を解答欄(解答用紙裏面)にマークしなさい。

(A)

明治維新の後、政府は、富国強兵を目標として、殖産興業政策を推進していった。

1870(明治3)年には、殖産興業を推進するにあたって主体的役割を果たす機関として  が設置され、それが中心となり、1872(明治5)年には新橋・横浜間に鉄道が敷設された。また政府は、鋳山や造船所を接收し、官営事業として経営した。政府が接收した代表的なものとしては、鋳山については旧藩により経営されていた  が、造船所については金沢藩が運営していた  がある。

明治政府はこのほかに、製糸・紡績の分野にも力を入れ、各地に官営の工場を設けた。その一つには  がある。これはもともと、薩摩藩が鹿児島紡績所に次いで建設したもので、日本で2番目に建設された機械制紡績工場であった。

〔語 群〕

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| A 愛知紡績所 | B 生野鋳山  | C 院内鋳山   |
| D 工部省   | E 堺紡績所  | F 佐渡鋳山   |
| G 商工省   | H 新町紡績所 | I 長崎造船所  |
| J 農商務省  | K 兵庫造船所 | L 横須賀造船所 |

(B)

幕末以来、綿糸や綿織物の生産は一時停滞していたが、手織機を改良するなどの技術革新がすすめられ、問屋制家内工業を中心に、しだいに生産が上昇していった。

そして、1883(明治16)年には、渋沢栄一らによって設立された  が開業し、そこでは、イギリスの紡績機械や蒸気機関を採用した大規模経営が行われた。こうした動きに刺激されて、機械制生産が急増していった。他方で、以前より用いられていた、手紡や、  によって発明され、1877(明治10)年に開催された博覧会で最高の賞を与えられた  による綿糸の生産は、次第に衰退していくこととなった。また、綿織物業においては、農村においても小型で国産の力織機が導入されるようになり、問屋制家内工業生産から小工場による生産へと転換する動きが進んだ。

こうして、日清戦争前後には、日本においても、製糸・紡績などの軽工業部門を中心として産業革命が進められていった。

[語 群]

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| A 大阪紡績会社 | B 臥雲辰致   | C 鐘淵紡績会社 |
| D ガラ紡    | E ジョン=ケイ | F 大日本紡績  |
| G 田中久重   | H 東洋紡績   | I 飛び杼    |
| J 豊田佐吉   | K 巻上機    | L リング紡績機 |

(C)

このように軽工業を中心として産業革命が開始された一方で、重工業部門においては、軍事工場と鉄道を除く官営事業が次々と民間に売却されていったが、造船奨励政策により造船業に成長がみられたほかは、民間において顕著な成長はみられず、造船の材料となる鉄鋼も輸入に頼らざるをえない状況であった。

そこで政府は、鉄鋼の国産化を進めることをめざして、1897(明治30)年に官営八幡製鉄所を設立した。これにより、重工業が発展する礎が築かれることとなった。日露戦争後には、民間の製鋼会社の設立もすすめられた。その代表的なものとしては、1907(明治40)年に三井資本と英国の会社の共同出資によって設立された  がある。また、工作機械の分野では、1905(明治38)年には、  が、アメリカ式旋盤の精度を持つ旋盤の国産化を成功させるに至った。このように重工業分野においてもめざましい成長がみられるようになった。

産業革命が進展しつつある時期においては、貿易の規模も拡大していった。貿易品の売買においては商社が重要な役割を果たすようになった。

また海運業においては、1885(明治18)年に三菱会社と  との合併で設立された日本郵船会社は、インド綿花の輸送を主目的とするボンベイ航路のほか、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアへの各航路を開いた。

[語 群]

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| A 池貝工場   | B 大阪商船会社 | C 釜石製鉄所   |
| D 共同運輸会社 | E 神戸製鋼所  | F 芝浦製作所   |
| G 東洋汽船会社 | H 日本製鋼所  | I 日本製鉄会社  |
| J 日立製作所  | K 三菱重工業  | L 郵便蒸気船会社 |